

標津町エコ・ツーリズム
交流推進協議会
(教育旅行)

根室振興局

【協議会の特徴・理念】

豊かな自然資源のほか、日本有数の漁獲量を誇る秋鮭などの漁業資源や、広大な牧草地で展開する酪農業の二大基幹産業を活用した体験プログラムを中心に、地元住民との触れ合いや交流・体験から感動を共有できる「エコ・ツーリズム交流」を推進している。

【地域の概要】

① 自然環境

根室海峡沿岸部の中央に位置し、北方領土の国後島を眼前に望む。根釧原野の平野部、知床連山の山並み、日本最大の砂嘴・野付半島など、海、山、川及び平野の多様な地形を有する。



② 人口(2020年9月)

標津町：5,141人

③ 主な産業

沿岸部では国内屈指の漁獲を誇るサケ・ホタテを中心とした漁業・水産加工業が盛ん。また、内陸部では2万頭以上の乳牛を飼養する酪農業が展開されており、これらが町の二大基幹産業となっている。

④ イベント等

- ・ 標津町民祭り水・キラリ
- ・ しべつあきあじまつり



水・キラリ
(曳山巡行)



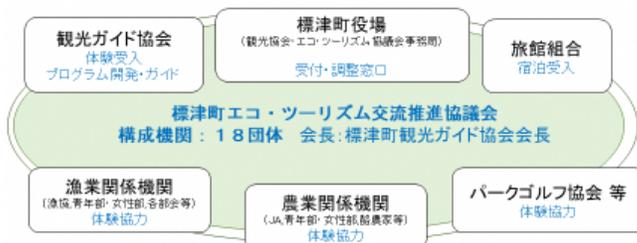
あきあじまつり
(鮭のつかみどり)

【協議会の概要】

① 設立年

平成13(2001)年

② 構成員・代表者(又は団体)



関係機関が横断的に連携し、教育旅行の受入・体験観光を推進

・平成12(2000)年

日本初「地域ハサップ」として導入した水産物の高度な衛生管理の取組を消費者に伝えるため、「顔の見える水産業」を先取りし消費者に生産現場を見てもらう「モニターツアー」を開催。

ツアー参加者の感想から「消費者が産地を見学する効果」と「産業の観光資源としての魅力」を認識し、標津町ならではの幅広い観光への取り組みを開始。

・平成13(2001)年

観光ガイド協会が発足。エコ・ツーリズム交流推進協議会を設立し、地域の関係機関が連携した体験受入を開始。

・平成14(2002)年

教育旅行の受入を開始し、現在に至るまで積極的な受入を継続している。

③活動内容

- ・ 旅行会社(学校)、観光客との受入調整
- ・ 体験メニューの開発、体験・宿泊先との調整

【主なコンテンツの種類及び実績(過去3カ年)】

①教育旅行受入件数(校)

年度	受入総数	うち農業体験	うち漁業体験	うち北方領土学習	うちその他(自然体験イベント参加等)
平成29(2017)	8	2	4	3	5
平成30(2018)	9	1	7	3	5
令和元(2019)	18	5	10	9	9

②教育旅行受入人数(人)

年度	受入総数	うち農業体験	うち漁業体験	うち北方領土学習	うちその他(自然体験イベント参加等)
平成29(2017)	753(87)	87	331	270	1,181
平成30(2018)	847(17)	17	457	224	738
令和元(2019)	1,968(135)	397	687	793	1,746

※()内は、標津町での農家民泊体験人数。複数の体験を行うことが多く、受入総数(実数)とうち数合計は一致しない。

③利用状況

【利用者(学校)の形態】

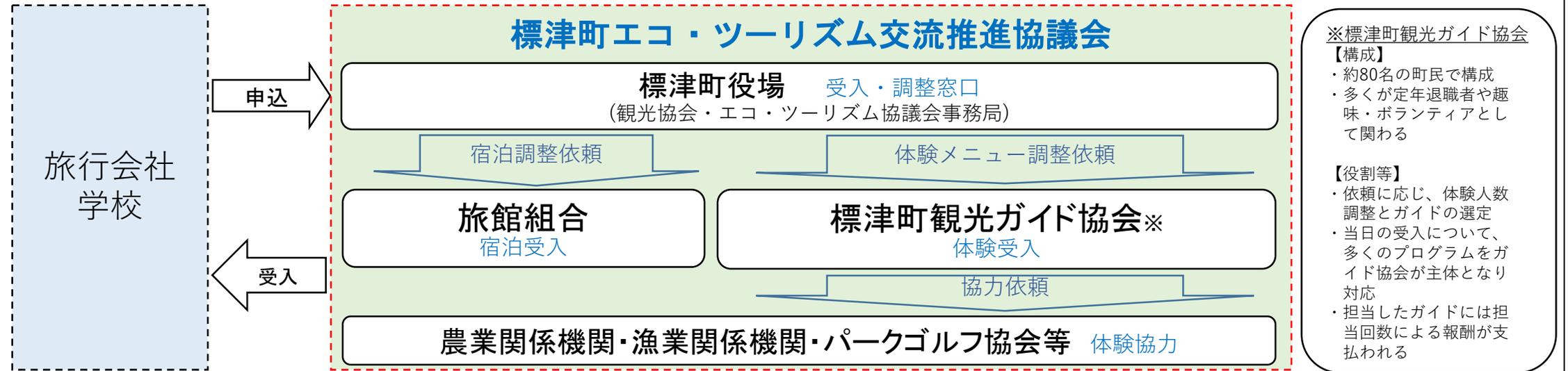
- ・ 受入は道外の学校が中心(東京都、大阪府、神奈川県など)
- ・ 多くの学校が、内閣府の「北方領土を目で見る運動」(修学旅行誘致)の助成を活用

【利用者(学生)の声】

- ・ 酪農家へのファームステイを経験して、私たちの食事が牛の命や酪農家さん達の仕事で支えられていると実感しました。牛乳や牛肉を見る度に食料の大切さが思い返されます。
- ・ 体験ガイドの方や宿泊施設の方など、接してくれた地域の人がみんな優しかったです。

【特徴的な取組】

○ 関係機関が横断的に連携し、教育旅行の受入・体験観光を推進



【プログラムの紹介】他のプログラムや体験可能時期などの詳細は、下記連絡先へお問い合わせください



酪農体験・農家民泊



新巻鮭づくり体験



北方領土学習



郷土料理体験



サーモンフィッシング



カヌー体験

- ・地域資源を活用した水産加工体験や酪農体験など、37種類の豊富なプログラムで「エコ・ツーリズム交流」を展開。
- ・旅行申し込み受付から体験内容・宿泊先の調整・旅行実施まで、協議会が中心となり円滑な受入。
- ・観光ガイド協会を組織し、町民がガイドとして参画することで、関係機関の負担を軽減しつつ地域ならではの魅力を提供。
- ・酪農体験・農家民泊は、若手農業者が主体の「標津町グリーンツーリズムフレンズ」とJA標津を中心に実施。

【連絡先】

代表窓口：標津町エコ・ツーリズム交流推進協議会(事務局：標津町役場商工観光課 TEL：0153-82-2131)